

#### (4) 水道施設・管路の耐震化と経年管の状況、鉛製給水管残存状況

令和3年度末の全国の水道施設の耐震化の状況は、浄水施設の耐震化率は39.2%、配水池の耐震化率は65.0%、基幹管路の耐震適合率は41.2%と依然として全体的には低い状況にある。

大阪府全体における令和4年度末の浄水施設の耐震化率は31.4%、配水池の耐震化率は52.8%、基幹管路の耐震適合率は51.0%、法定耐用年数40年を超えた経年化管路率は35.6%となっている（P.48～50 参照）。

令和3年度末における全国の耐震管布設状況と法定耐用年数（40年）超の管延長は、大阪府が残存率で全国ワーストとなっている（表一八）。

また、鉛製給水管の残存状況については、残存延長は全国ワーストではないものの、残存件数は全国ワーストとなっている（表一九）。

各事業体においては、アセットマネジメント手法を活用して、綿密な耐震化・更新計画を立案し、早急に水道施設・管路の耐震化、鉛製給水管の更新に向けた取り組みを進める必要がある。

表一八 水道管路の耐震化状況と経年管の状況（全国比較） 【令和3年度水道統計より】

耐震管の延長・割合（配水支管含む）				法定耐用年数(40年)を超えた管延長・割合			
管延長 (km)		布設率 (%)		管延長 (km)		残存率 (%)	
① 東京都	13,873.8	① 東京都	47.0	① 愛知県	10,654.9	① 大阪府	35.0
② 愛知県	9,847.4	② 富山県	31.0	② 大阪府	8,682.4	② 香川県	29.5
③ 埼玉県	7,894.6	③ 神奈川県	28.3	③ 北海道	8,579.8	③ 神奈川県	29.3
④ 神奈川県	7,432.4	④ 青森県	26.9	④ 千葉県	8,252.7	④ 埼玉県	28.1
⑤ 大阪府	6,329.4	⑤ 埼玉県	26.7	⑤ 神奈川県	7,703.5	⑤ 山口県	27.8
		⑥ 大阪府	25.5				

表一九 鉛製給水管残存状況（全国比較） 【令和3年度水道統計より】

残存延長 (km)				残存件数 (件)			
全体の残存状況 (km)		公道部の残存状況 (km)		全体の残存状況 (件)		公道部の残存状況 (件)	
① 兵庫県	426.9	① 石川県	265.4	① 大阪府	222,625	① 大阪府	82,275
② 石川県	339.1	② 兵庫県	166.7	② 兵庫県	194,825	② 兵庫県	46,264
③ 香川県	300.2	③ 大阪府	125.7	③ 香川県	120,381	③ 広島県	29,402
④ 大阪府	272.4	④ 神奈川県	96.5	④ 神奈川県	116,012	④ 宮崎県	29,020
⑤ 長野県	247.6	⑤ 静岡県	95.8	⑤ 石川県	84,545	⑤ 福岡県	28,604